

## いじめの原因

松楠会綾歌支部 作花 節子

小学校教師を40年近く勤めた。ふり返ってみると子どものいじめの根源が教師にある場合を二度ほど体験した。

親の訴えによると、「子どもが臭い、汚い」と先生に言われ、それが原因で子どもたちの視線がいじめになっているというのである。この場合、教師が偏見を持たず姿勢を公正公平に変えるだけで、いじめはしだいに消えていった。

もう一つのいじめは、4月にS小学校へ転勤したときのことである。5年生の担任になり、前担任から引き継ぎを受けた。Kという児童がクラス全員からいじめを受けているというのである。その原因は、転校生（2年の時）Kが、どんなに言ってもS校の制服を着ないことであると言う。そして、親は気に入らないことがあると、学校へ来て校長先生の机を「どんどん」叩いて抗議するというのである。

私はさっそく子どもたちの交友調査をした。すると、クラスのほとんど全員がKを嫌いだと言う。次の業間体育でドッジボールをしてみた。やはりKのところへは、一度もボールがまわってこない。これは大変だと思った。そのとき、教師として子どもたちに公正公平に接し、子ども一人ひとりの良さを見つけて、褒めていこうと決めた。

幸いに彼は、頭脳も優れ、積極的に行動するので、褒める機会は自然に毎時間のようにあった。はじめての家庭科では、ボタン付けの練習にブレスレットを作った。彼は、できた作品を手を巻いて終日喜んでいた。

秋の遠足は箸蔵寺へ行った。箸蔵寺へはロープウェイで一人ひとり椅子に乗って登るのである。途中、足が地に着きそうになる所がある。やんちゃなKは、足をつけて飛び降りてしまった。先に登った仲間が、

「先生！K君が降りた！」と口々に叫んだ。

はっとした。どうしよう、と思っていると、また椅子にちょこんと座って登ってきた。そのとき思わず「危ないじゃないの！」と言って、Kのお尻を思い切り叩いてしまった。私の行動を見ていた子供たちは心配した。叩いたことを親がおこってくるだろうと……。私も無事あがって来たのだから喜んで、抱いてあげればよかったと反省した。

遠足から帰って「こんなことがありましたので叱っておきました。」と家に電話をした。母親は、「どうぞ、どんどん叱ってください。」と言ってくれた。そして、その後、教室へ「スズムシ」を水槽に入れて持って来てくださった。

その後の交友調査では、Kを嫌う子はほとんどいなくなり、好きだという子が増えた。

親からは、「子どもが落ち着きを取り戻し、ノートの文字も丁寧に書くようになりました。ありがとうございます。」と感謝の言葉をおくってくれた。彼は九大の工科を卒業し、立派なお父さんになっている。

(学芸・昭和 29 年卒)